

学校法人君津学園
清和大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

清和大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 君津学園
理事長名	真板 益夫
学長名	真板 益夫
ALO	原 信夫
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	千葉県木更津市東太田3-4-2

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
児童総合学科	初等教育専攻	30
児童総合学科	幼児教育・福祉専攻	90
	合計	120

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

清和大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 12 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、創設者（現理事長・学長）の熱い思いに基づいて「真心教育」を建学の精神とし、それは、人間性の全人的形成を目指してそれぞれの個性が持つ立派な可能性を自然に開発伸長できるように育成する教育であることと説明されている。その内容について、理事長・学長自ら執筆の「真心教育の本義」の中で具体的に述べられ、常にこの教えを揺るぎない人生の指標として歩むべきことを形として示すために平成 10 年に「真心の塔」が建てられた。理想を追求する精神の証となっている。建学の精神に基づいた教育目的及び教育目標は、ガイダンスや、新入生を対象とした 2 泊 3 日の「館山集中授業」においても周知され、「教養演習」「総合保育演習」等のゼミへと引き継がれる。

児童総合学科の単科の短期大学であり、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための教育の実施体制を整備している。専任教員数も短期大学設置基準を満たすとともに、専任教員各人は努力と情熱を持って学生指導に当たり、教員同士の密なコミュニケーションは大きな教育効果を生んでいる。また、教員の連携によって問題を抱えている学生の早期発見と指導ができ、休学・退学を未然に防ぐなどの個別対応に成果がみられる。

毎年、高い就職率である。早期からの専門性を生かした職種への就職に対する意識を高め、自立支援を進めるために、就職委員会が企画する就職活動対策を強化している。

教員の研究活動は、授業にかかわる論文等を中心に展開されている。研究活動状況の公開は、ウェブサイトにも各教員の過去 3 年分を掲載している。特に、授業に関して学内共同研究が行われている点が評価できる。

社会的活動については、地域における信頼が厚く、木更津市からの依頼を受けて、幼稚園などでの預かり保育のボランティア補充員として学生を派遣している。また、「イングリッシュハンドベル」の公開講座の実績があることから、平成 22 年度より木更津市の委託契約による清和大学公開講座にも短期大学の教員を派遣することになるなど、地道に地域に貢献する姿勢がある。

学校法人の管理運営は、寄附行為に基づき、理事会の構成と運営、監事の構成と業務、評議員会の構成と運営は適切である。理事長・学長のリーダーシップの下、コンパクトな組織体の特性を生かし、教職員が協働し業務を行っている。

財務体質は、わずかに余裕資金があるものの、短期大学部門及び学校法人全体において支出超過である。財務体質改善に向けて学校法人は「学校法人君津学園 中期事業計画（平成 22 年度～平成 26 年度）」を策定し財務の健全化に向けて取り組みを行っているところである。

今後の自己点検・評価活動については、各委員会の反省を関連付けた総合的・統括的な評価を進め、一層、具体的で実質的な改革・改善を進めることとしている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

（1）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創設者（現理事長・学長）自らの建学の精神にかかわる思いが「真心教育の本義」の中で七つの項目として具体的に述べられ、教職員に周知されている。また、それに基づいて教育を捉える努力がみられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育目的、教育目標を学生に周知する機会として、新入生対象に「館山集中授業」という 2 泊 3 日の研修を実施している。学生は、研修でプログラムに参加し、内容をグループでまとめて発表することで、2 年間で身につける能力について体験的に学ぶことができる。
- 学生の履修状況について教員間の情報共有がよく行われている。特に兼任講師に対して年度開始前に全体説明会を行っている。これにより、出席管理を中心に、専任教員と常に連絡がとれるよう体制を整えている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員各人は努力と情熱を持って学生指導に当たり、教員同士の密なコミュニケーションは大きな教育効果を生んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生一人ひとりの学力を確認し、実態に応じて専門科目の担当者と教養演習担当者が個別指導を行い、授業の出席状況を常に把握し、授業出席回数不足による履修放棄等を未然に防ぐなど、きめの細かい学生への支援が継続的に実施されている。
- 就職指導の面では、学生に高い目標を持たせ、希望に合わせて対応していくことで、高い就職率を維持している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 短期大学全体のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を推進する組織として、平成 23 年度に FD 委員会等を設置予定である。授業改善に向けて一層の組織的な活動が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 各教員の担当コマ数の基準を週 5 コマとしながら、専門によって大幅に超過している教員が存在していることから、担当コマ数の均一化へ向けての改善努力が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金があるものの、短期大学部門及び学校法人全体が支出超過であり、財務体質の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創設者（現理事長・学長）の熱い思いに基づいての建学の精神であることが明確にうたわれている。また、学則にも明示されており、人間性の全人的形成を目指してそれぞれの個性が持つ立派な可能性を自然に開発伸長できるように育成する教育であることが説明されている。その内容について、理事長・学長自ら執筆の「真心教育の本義」の中で具体的に述べられている。

また、「真心教育」の目指すところは、(1) 社会の良心たる人間になれ (2) 困難にくじけない逞しい人間になれ (3) 大いなる真実の自己に生きよ、ということであり、常にこの教えを揺るぎない人生の指標として歩むべきことを形として示すために平成10年に「真心の塔」が建てられた。理想を追求する精神の証となっている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

児童総合学科単科の短期大学であり、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得を目標として教育課程を編成している。資格取得を目指す課程編成となっているため、選択科目の幅は大きくはないが、教養教育への取り組み、専門科目の設定について充実させる工夫がみられる。教育目的及び教育目標は、ガイダンスや、新入生を対象とした2泊3日の「館山集中授業」において周知され、「教養演習」「総合保育演習」等のゼミへと引き継がれる。

全体として、資格取得のための配慮がされている。授業形態のバランスはとれており、クラス規模も適当である。シラバスは、冊子形態で授業開始前に配布されており、授業の内容や評価方法はおおむね把握できる。

学生に関する問題点の共有は、各種会議体で綿密に行われており、これが個々の教員の授業改善への意欲につながっている。現在、平成 23 年度の FD 委員会発足に向けて、FD 準備委員会が組織され、教員間の授業見学等が計画されており、今後の活動が期待される。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

児童総合学科の単科の短期大学として、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための教育の実施体制を整備している。専任教員数も短期大学設置基準を満たすとともに、専任教員各人は努力と情熱を持って学生指導に当たり、教員同士の密なコミュニケーションは大きな教育効果を生んでいる。

図書館については、教諭や保育士の養成に必要と考えられる雑誌や図書を、おおむね整備している。また、学生の教育・保育実習に対応できるように、絵本や紙芝居などの資料も整備している。当該短期大学は、ピアノの技術向上に力を入れているので、その練習に役立つバイエルを演奏した CD などもあり揃えており、学生が活用しやすいようにしている。

資格取得の観点から、児童総合学科の学生の勉学に適した場になっているといえる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度の指標として資格取得の実績をみると、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状はいずれも高い取得率であり、おおむね評価できる状態にある。単位取得状況の確認及び、退学、休学、留年については、専任協議会や教授会で報告・検討が行われている。個々の学生に対しては、担任教員が個別に指導している。学生の満足度については、授業評価をはじめ、実習後、卒業前にアンケートを実施し、配慮している。

就職希望者における専門就職の割合は高い。また、就職先に対するアンケートや卒業後 1 年の卒業生に対するアンケートを実施している。アンケートは回収後、教員間で回覧し、各種会議での検討材料となっている。同窓会との連携推進のための検討が現在進められており、卒業生への積極的なアプローチがみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

少人数教育ゆえの教職員と学生との密な触れ合いと広いキャンパスの環境的充実の組み合わせは効果的な学生支援につながっている。入学直後の 2 日間のオリエンテーションと 5 月末の合宿オリエンテーションで丁寧な学生生活案内を実行している。また、教員の連携によって問題を抱えている学生の早期発見と指導ができ、休学、退学を未然に防ぐなどの個別対応に成果がみられる。

毎年、高い就職率である。早期からの専門性を生かした職種への就職に対する意識を高め、自立支援を進めるために、就職委員会が企画する就職活動対策を強化している。

業者主催の公務員模擬試験参加もその一例で、就職希望学生の 30 パーセント近くが受験し、自分を試すことへの挑戦は学生に意欲と自信をもたらしている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、授業にかかわる論文等を中心に展開されている。過去 3 ヶ年に業績のない専任教員はなく、研究活動状況の公開は、ウェブサイトに各教員の過去 3 年分を掲載している。特に、授業に関して学内共同研究が行われている点が評価できる。また、研究奨励のための特別研究費や、発表媒体として「研究紀要」も整備されている。研究室は一部 2 人部屋の環境であるが、設備は十分である。その他備品等についてもおおむね適切に整備されている。また、全教員が研修日を 1 日確保しており研究への配慮がされている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域における信頼が厚く、木更津市からの依頼を受けて、幼稚園などでの預かり保育のボランティア補充員として学生を派遣している。また、「イングリッシュハンドベル」の公開講座の実績があることから、平成 22 年度より木更津市の委託契約による清和大学公開講座にも短期大学の教員を派遣することになるなど、地道に地域に貢献する姿勢がある。将来保育士や、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちにとって、地域活動は自らの行動力を養い視野を広め、社会の一員としての自覚を高める上で有益であることから、今後、学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等を積極的に推進し、卒業生及び地域住民への貢献に更に資する工夫が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営は、寄附行為に基づき、理事会の構成と運営、監事の構成と業務、評議員会の構成と運営は適切である。当該短期大学は学長のリーダーシップの下、コンパクトな組織体の特性を生かし、教職員が協働し業務を行っている。教授会は月 1 回定例で開催し、学則に定められた教学に関する事項を審議している。また、各種委員会は規程に従い適切に運営されている。

事務職員は少人数であるが協力し業務を遂行し、学生対応業務は教員との連携・協働関係の中で必要な業務を行っている。また、事務業務に関しては清和大学短期大学部事務分掌要項、清和大学短期大学部文書保存規則に基づき事務処理を行っており適切である。

スタッフ・ディベロップメント (SD) 活動は、個々の職員が研修会に参加するなどの取り組みが行われている

評価領域Ⅸ 財務

予算は、法人企画室より過去の実績に基づいた予算計画が提示される。各設置校の要望を組み入れ事業計画や予算が修正され、3月に評議員会・理事会で承認決定されている。

予算の執行に関しては、予算執行規程はないが日常の出納業務、予算執行等は問題なく行われている。

公認会計士による監査は監事の立会いの下で行われ、財務の表示や各業務は問題なく適切である。

学校法人及び当該短期大学の財務体質は、平成19年より収容定員未充足であり、学生数の減少による支出超過が続いている。財務体質改善に向けて、法人は「学校法人君津学園 中期事業計画（平成22年度～平成26年度）」を策定し財務の健全化に向けて取り組みを行っているところである。今後、この計画に基づく改善が確実に進むことが望まれる。

短期大学に必要な施設・設備は整備され、施設設備、物品の管理は規程に従って適切に行われている。危機管理、省エネルギーや省資源対策を実施していることは評価できる。

評価領域X 改革・改善

自己点検・評価委員会は、学長、学科長、教務部長、学生部長、学校法人君津学園本部事務局長、短期大学事務室長、入試、研究、就職の各委員会の委員長など役職者を中心に、各委員会が連携する構成となっている。具体的には、自己点検・評価委員が中心となって、評価内容にかかわる委員会で討議し、それを自己点検・評価委員会で集約するという方法で行っている。各委員会での評価を短期大学全体として関連付けた総合的・統括的な評価にしていくことが望まれる。